



広い世界に光あれ

2025年 7月

安全で楽しい夏休みを！

7月7日(月)から11日(金)まで個人懇談でした。短い時間ではございましたが、学校での子どもたちの様子を知っていただき、また、ご家庭での様子を教えていただきました。保護者の皆様には、ご多忙の中、ご来校いただきまして、ありがとうございました。

さて、本当に早いもので、今週末から子どもたちが待ちに待った夏休みが始まります。

夏休みは、子どもたちの生活の場が、学校から家庭や地域などに変わります。前後の土日を含め43日間の長い夏休みです。熱中症対策をし、安全を確保した上で、この夏にしかできない学習や体験をさせてあげてほしいと思います。

「井の中の蛙大海を知らず」、「百聞は一見に如かず」と言うように、夏休みは子どもたち自身が実際に見たり、聴いたり、経験したりすることで「世間」を広げ、「見識」を深めるいい機会でもあると思います。また



着衣泳の練習(6年)

「好きこそもの上手なれ」というように、興味ある事や好きなことに熱心に取り組むことで、ぐっと上達できる機会です

この夏休みが子どもたちにとって安全で楽しく、そして心身ともに成長できる夏休みとなりますよう、そして2学期には元気に登校してきてくれるよう、願っています。



ペットボトルを浮具にして

7月の全校朝会で・・・

今日は「整理整頓の大切さ」について話をしました。

横浜Fマリノスというサッカーチームがあります。今年は調子が悪そうですが、今から20年前ほど前の話です。

このチームはスターと呼ばれるような優秀な選手が集まり、毎年のように優勝候補にあげられていながら、今一步のところで優勝を逃していました。そんな中、2003年に岡田武史さんが監督としてチームに迎えられました。

練習初日、岡田監督が選手のロッカールームを見ると、脱いだユニホームやテーピングで使ったテープが散らかっていたそうです。岡田監督はその散らかり具合に激怒し、すぐ、選手たちにロッカールームを片付けさせました。そして毎日、サッカーの練習よりも選手自身の身の回りの整理整頓を先に徹底させました。

そしてその年から、チームは2年連続優勝をしました。

もう一つ、ある高校のサッカー部の話です。そのサッカー部は全国でも有数の強豪ですが、全国優勝までは今一步のところで敗退していました。ある年の夏の合宿でいつも利用している旅館のご主人が監督の先生に言いました。

宿のご主人：「今年のチームは強くなりそうですね。」

監督：「なぜですか？」

宿のご主人：「今年の生徒さんは、おふろをきれいに使ってくれますからね。」

そして、その年の冬の選手権でこの高校サッカー部は優勝しました。

この話は「当たり前前」の事を「当たり前」にすることで、身の回りも頭の中も整理して、優勝するまでに何をすべきか見通しを持つことにつながったということです。目に見える結果はすぐには出ないかもしれませんが、子どもたちが毎日、当たり前前、の事を「当たり前」にする、やるべきことをきちんとできるようにしようと伝えました。